

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(令和7年10月31日)

|        |                  |           |                           |
|--------|------------------|-----------|---------------------------|
| 事業コード  | R07-農-終-03       | 区 分       | ● 国庫補助<br>○ 県単独           |
| 事業名    | 経営体育成基盤整備事業      | 部 局 課 室 名 | 農林水産部農地整備課                |
| 事業種別   | ほ場整備             | 班 名       | 農地整備チーム (tel)018-860-1824 |
| 路線名等   | 畑                | 担 当 課 長 名 | 小野寺 平崇                    |
| 箇所名    | にかほ市畑            | 担 当 者 名   | 大石 博樹                     |
| 戦 略    | 農林水産戦略           |           |                           |
| 目指す姿   | 農業の食料供給能力        |           |                           |
| 施策の方向性 | 持続可能で効率的な生産体制づくり |           |                           |

1. 事業の概要

|  |  |   |  |  |                            |          |  |
|--|--|---|--|--|----------------------------|----------|--|
| 事業の背景<br>及び目的  | 本地区の大半が10a区画で地下水位が高く、乾田化が図れないため、転作作物の導入が困難であり、水稻に偏った生産構造から脱却できない状況である。また、狭小区画により機械作業効率が低く、維持管理に費やす労力の増加が問題となっている。<br>こうした現状を踏まえ、地形に応じた区画拡大と、用排水路の完全分離・装工、農地の汎用化のための暗渠排水工を一体的に整備し、複合経営が可能な農業基盤を整備する。また、新たに設立する農業法人等に地区内の農地を集積し、農地の団地化・連担化による効率的な農業経営を行い、新たな作物の導入により収益性を追求した農業への転換を図るもの。 |   |  |  |                            |          |  |
|  | 事業期間   | 前回(R3年) H28年 ~ R4年<br>終了 H28年 ~ R5年           | 総事業費   | 前回(R3年) 37.6億円<br>終了 36.0億円                | 国庫補助率<br>55%               |          |  |
| 事業効果の<br>要因変化<br>及び発現状況  | 事業規模   | 前回(R3年) 区画整理工 124.3ha<br>終了 区画整理工 116.1ha     |  |  |                            |          |  |
|  | 事業費<br>内訳内容<br>(千円)<br>及び<br>要因変化  |   | 前回評価計画①                                      | 最 終②                                       | 増減②-①                      | 理 由      |  |
|  |  | 事業費   | 3,763,000                                    | 3,598,000                                  | -165,000                   | 区画整理面積の減 |  |
|  |  | 経 費<br>内 訳                                    | 工 事  | 3,248,000                                  | 3,221,709                  | -26,291  |  |
|  |  |   | 用 補  | 201,000                                    | 84,582                     | -116,418 |  |
|  | その他  |   | 314,000                                      | 291,709                                    | -22,291                    |          |  |
|  | 事業内容   | 区画整理 124.3ha<br>暗渠排水 124.3ha<br>測量設計<br>用地補償  | 区画整理 116.1ha<br>暗渠排水 116.1ha<br>測量設計<br>用地補償 | 区画整理 -8.2ha<br>暗渠排水 -8.2ha<br>測量設計<br>用地補償 |                            |          |  |
|  | コスト・効果対比較  | 費用便益比変化の主な要因(前回評価→終了)                         |  |  |                            |          |  |
|  | ○最終コスト<br>終了C②/前回評価C①=(0.96)   | 【費用】<br>区画整理面積の変更による事業費の減 3,763百万円 → 3,598百万円 |  |  |                            |          |  |
|  | ○費用便益<br>前回評価B/C=(1.05)<br>↓<br>終了B/C=(1.11)   | 【便益】<br>事業費の減による、B/Cの増                        |  |  |                            |          |  |
| 目 標<br>達成率   | 指 標 名  | 評価箇所における担い手等への農地集積率                           |  |  |                            |          |  |
|  | 指 標 式  | 地区内の担い手等の経営面積÷ほ場整備地区面積                        |  |  |                            |          |  |
|  | 指標の種類  | ●成果指標   | 業績指標   | 低減指標の有無                                    | 有 ●無                       |          |  |
|  | 目標値 a  | 100.0%(116.1ha)                               |  | データ等の出典                                    | a: 活性化計画書<br>b: 流動化達成状況報告書 |          |  |
|  | 実績値 b  | 100.0%(116.1ha)                               |  |  |                            |          |  |
|  | 達成率 b/a  | 100.0%  |  | 把握の時期                                      | R7年3月                      |          |  |
| 指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法<br>○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む |  |   |  |  |                            |          |  |
| 自然環境の<br>変化  | 整備にあたっては、施工時に発生した泥水を地区外へ流さないよう汚濁防止対策を実施し、環境に配慮した。<br>自然環境の変化は確認されていない。   |   |  |  |                            |          |  |
| 社会経済<br>情勢の変化  | 世界的な食料不安や農業の労働力不足が深刻化するなか、スマート農業の普及拡大や基盤整備による効率的な生産体制の確立が求められており、「新秋田元気創造プラン(R4~R7)」においても、重点戦略の重要な取組のひとつとして「水田の大区画化やスマート農業に対応した基盤整備の促進」を図ることとしている。   |   |  |  |                            |          |  |
| 事業終了後の<br>問題点及び管理・<br>利用状況   | ほ場は適切に管理されており、事業効果が発揮されている。<br>また、農業生産法人3組織および大規模経営農家4戸へ地区面積の100.0%が利用集積されるなど効率的な営農が展開されている。   |   |  |  |                            |          |  |

|                      |  |
|----------------------|--|
| 住民満足度等の状況<br>(事業終了後) | ①満足度を把握した対象 ●受益者 ●一般県民 (時期:R7年7月)<br>②満足度把握の方法<br>●アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット<br>その他の方法 (具体的に )<br>③満足度の状況<br>アンケートの結果、ほ場整備事業に受益者(回答者19名)の90%が「満足・ほぼ満足」、地域住民(回答者80名)の82%が「実施して良かった」と評価しており、概ね満足度は得られている。 |
| 上位計画での位置付け           | 新秋田元気創造プラン「持続可能で効率的な生産体制づくり」   |
| 関連プロジェクト等            | 園芸メガ団地等大規模園芸拠点育成事業(R1～R2)  |
| 前回評価結果等              | ●選定または継続 改善 見直し 保留又は中止<br>①指摘事項<br>なし<br>②指摘事項への対応<br>なし   |

## 2. 所管課の自己評価

| 観 点   | 評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )  | 評 価 結 果        |
|-------|--|----------------|
| 有 効 性 | ①住民満足度等の状況<br>●a ○b ○c<br>アンケートの結果、ほ場整備事業に受益者(回答者19名)の90%が「満足・ほぼ満足」、地域住民(回答者80名)の82%が「実施して良かった」と評価しており、概ね満足度は得られている。                       | ●A<br>○B<br>○C |
|       | ②事業目標の達成状況<br>●a 達成率100%以上 ○b 達成率80%以上100%未満 ○c 達成率80%未満<br>担い手等への農地集積割合の達成率は100%であり、事業による有効性は高い。  |                |
| 効 率 性 | ①費用便益比<br>●a ○c<br>費用便益費は1.11であり、経済性は妥当である。  | ●A<br>○B<br>○C |
|       | ②コスト縮減の状況<br>○a 縮減率20%以上 ○b 縮減率20%未満 ○c 縮減なし   |                |
| 総合評価  | ●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い)<br>○アスパラガスやたららの芽など高収益作物の複合作物に取り組むなど、事業の効果が発現している。<br>○有効性、効率性とも評価が高く、農家や地域住民から概ね満足度が得られており、事業の妥当性は高い。 |                |

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

ほ場整備を契機として設立した農業法人など地域の中核となる組織が、体質強化を図っていくことが地域農業の発展につながることから、農地集積による経営規模の拡大を図るよう指導していくほか、高収益作物の導入による複合経営への取組を一層推進していきたい。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

## ○総合評価の判定基準

| 総合評価の区分     | 判 定 基 準             | 総合評価 |
|-------------|---------------------|------|
| A (妥当性が高い)  | 全ての観点の評価結果が「A」判定の場合 | A    |
| B (概ね妥当である) | 「A」判定、「C」判定以外の場合    |      |
| C (妥当性が低い)  | 全ての観点の評価結果が「C」判定の場合 |      |